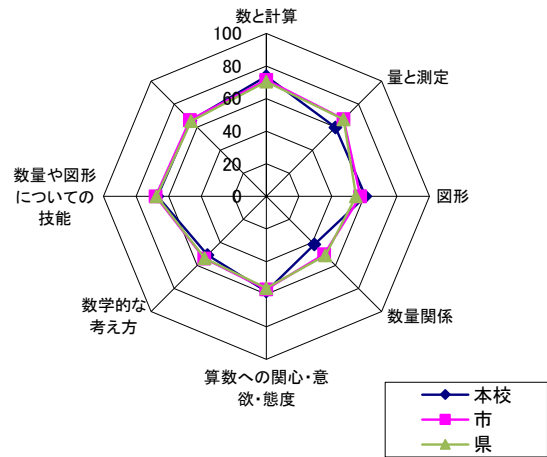


宇都宮市立瑞穂野北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.7	71.5	70.4
	量と測定	59.8	67.0	66.9
	図形	60.8	57.6	55.0
	数量関係	41.7	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	58.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	51.0	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	66.8	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	65.8	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○基本的な計算問題はよくできている。</p> <p>●小数のひき算の問題の正答率が低い。とくに、位取りの異なる計算のしかたの理解が不十分である。</p> <p>●小数を用いた重さの単位換算の問題に課題が見られる。</p>	<p>・問題に取り掛かる際に、一人一人が問題を把握する時間をしっかり確保する。</p> <p>・小数の問題演習を繰り返し行うことで、知識の定着を図る。</p> <p>・計算ドリルやプリントを用いて復習する機会を設け、数量感覚の定着につなげていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○図形の面積を求める問題の正答率が高い。</p> <p>●分度器に示された角の大きさの目盛りの読み取りに課題が見られる。</p> <p>●もととなる長方形の面積を等分し、そこから一辺の長さを求める問題の正答率が低い。</p>	<p>・角度のおよその見当がつけられるようにするために、量感を養う体験的な活動を取り入れ、具体的な場面で知識を活用できるようにさせていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○ひし形の作図は、ほとんどの児童ができています。</p> <p>●地図から情報を読み取り、図形の特徴を使って解答を導き出すことに課題が見られる。</p>	<p>・平面上にあるものの位置を表す問題では、基礎・活用問題のプリントなどを用いながら、継続して学習を行っていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係を式に表す問題の正答率が低い。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、その関係性について答える問題の正答率が低い。</p>	<p>・他の教科の学習と関連付けながら、グラフから何が読み取れるかを考えたり言葉で表現したりする時間を設ける。</p> <p>・表やグラフを使うよさを、委員会活動や学級活動などを通して数多く作業を取り入れ、体験的に学び、理解できるようにする。</p>